

今

年の三月に、七年ぶりにニューヨークを訪れた。七年間の変化は激しく、9・11

で崩壊したWTCの再開発や、鉄道高架跡を公園化したハイラインなど、見るべきものは多かったが、なかでも驚いたのは、レストランにしろアパートにしろ、今ではニューヨークの最先端の情報発信地はマンハッタンではなく、対岸のブルックリンであるということだった。

振り返ってみれば、古くはグリニッジ・ビレッジから、その後、ソーホー、トライベッカ、ノーホー、チェルシー、そして今ではブルックリンと、ニューヨークの先端情報発信地は、途切れることなく次々と移動している。そして、その結果、古い都心であるマンハッタンのミッドタウン地区は衰退気味であり、それを再生させようとグラントセントラル駅周辺では、大幅な容積ボーナスを認める新しいゾーニング案を検討中という。

考えてみると、ニューヨークほどではないにしろ、ロンドンでもパリでも、そして香港でもシンガポールでも、このように都市内の特徴的でそれぞれに個性ある地域が、切磋琢磨しながら発展していく現象が観察できるように思う。

これこそを都市のダイナミズムと呼びたい。そしてこのダイナミズムこそが、これらの都市をグローバルシティとして、その国際競争力を維持させている最も重要な要素ではないかと思うのである。

各 人 各 説

都市のダイナミズムと国際競争力

東京工業大学大学院社会理工学研究科 教授

中井 検裕

Norihiko Nakai



東京に目を転じると、東京にも様々な個性的な地域がある。丸の内、日本橋、銀座、六本木、秋葉原、上野、新宿、渋谷、池袋。書き出していけばきりが無い。そしてこうした業務地区、繁華街だけでなく、谷根千や神楽坂のように、江戸からの歴史を感じさせてくれるような地域もある。また、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック、さらには二〇二七年のロシア中央新幹線開業に向けて大きな変化が期待できる品川のような地域もある。こうしたそれぞれに個性ある地域が世界に誇る公共交通によってクラスター状にネットワークし、多様性を生み出しているのが東京の強みであり、魅力でもある。

東京は日本の経済エンジンであり、国際競争力を向上させることが大事だと言われている。再開発事業はそのための有力な手段ではあるが、しかし、それはどこにでも同じような超高層のオフィスタワーを建て、足元には同じような商業施設をつくることではない。生物の多様性が進化を促すように、都市の多様な地域性は都市の発展に不可欠であり、東京もその財産である多様性を失ってはならない。

ニューヨークやその他のグローバルシティがそうであるように、それぞれの地域の個性を引き立たせ、次々と先端地域が移り変わっていくダイナミズムを生み出すこそが、国際競争力の向上に繋がると思うのである。